


令和3年3月23日

山県市議会議長 様

議員名 加藤美信 

政務活動費収支報告書

山県市議会政務活動費の交付に関する条例第6条に基づき、下記のとおり2年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

1 収入

政務活動費 220,000 円

2 支出

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費		
研修費	2,600	
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合計	2,600	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 収入支出差引額

217,400 円




様式第4号(手引き第4章関係)

(本人作成書類)

令和2年9月20日

山県市議会議長 様

山県市議会議員

加藤 義信 

研修・視察等届出書

山県市議会政務活動費の手引きの規定により、研修・視察等届出書を提出します。

記

日程	令和2年10月5日から令和2年10月6日
出張者	加藤 義信
用務地	全国市町村国際文化研究所(天津市)
用務内容	令和2年度トップマネジメントセミナー




様式第6号 (第6条関係)

領収書貼付用紙

年 度	令和2年度	項 目	研修費
整理番号	2	議 員	加藤美信
支出の按分の 状 況	(按分の内容)		
	(按分率)	(政務活動費充当額) 2,600円	
領収書の 補足説明	令和2年度トップマネジメントセミナー 研修代		

領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄

お取扱明細原

NET CASH SERVICE  岐阜信用金庫

お取扱日 02 09 25 お取扱店番・受付番号 15300604-2926
お取引店 口座番号

お取引金額 0 0 5 1 0 0
お取引 振 込 0 0 0 0
手数料 ¥440 通帳裏 お取引金額 ¥4,600*
時刻 13:16
説明コード お取引後残高 *****

お 銀行
受 支店
取 普通
入 口座
三 番号
次 198-0033

見直そうあなたの生活排水 (フルーリーパー作製)

©Moomin Characters™/Bulls



全国研第 347 号
令和 2 年 8 月 25 日

山県市議会議長 様

公益財団法人全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所
学長 藤原 通孝
滋賀県大津市唐崎二丁目 13 番 1 号

研修受講の決定について

先にお申込みいただきました貴所属議員の研修受講について、次のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

つきましては、以下の事項にご留意のうえ、所要の事務手続き等について、よろしくお願ひします。

氏名	加藤 義信
コース名	令和2年度トップマネジメントセミナー
研修期間	令和2年10月5日(月)～10月6日(火)
受講形態	A:2日間受講(宿泊)

1 研修受講に要する経費の納入について

下記金額を指定期間内に指定口座へ振り込んでください。

なお、本決定通知をもって請求書に代えさせていただき、別途請求書は発行しません。

(1) 納入金額 : 4,600 円 <内訳> 研修費 (@1,300) 2,600 円
食費 2,000 円

(2) 指定期間 : 令和2年9月24日(木)～9月30日(水)


(3) 指定口座 : ■■■銀行 ■■■支店 普通 No. ■■■■
■■■銀行 ■■■支店 普通 No. ■■■■
名義人: ザイゼンコガチョウケンカクシヨウカクシヨウ
ゼンコガチョウケンカクシヨウカクシヨウ
(公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

注1) 振込依頼書の「ご依頼人氏名欄」は、必ず貴団体名を記入してください。

注2) 貴団体からの振込通知書の送付は不要です。

令和2年11月20日

山県市議会議長 様

議員名 加藤 義信 

研修視察等報告書

山県市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和2年10月5日から令和2年10月6日
- 2 研修視察先 全国市町村国際文化研修所
- 3 研修視察名 令和2年度トップマネジメントセミナー
- 4 研修視察者 加藤 義信
- 5 概 要 別紙
- 6 効 果 別紙



受講証明書

団体名：岐阜県 山県市

所属・氏名：山県市議会 議員 加藤 義信

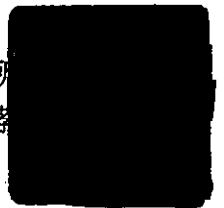
研修名：令和2年度トップマネジメントセミナー

期間：令和2年10月5日（月）～ 10月6日（火）

上記の研修を受講したことを証明します。

令和2年10月6日

全国市町村国際文化研修所
学長 藤原 通孝



令和2年度 トップマネジメントセミナー・参加報告書

危機を乗り越え新しい時代へ

令和2年度 10月5日～10月6日

1・講義 東日本大震災から学んだこと 「想定外は起きる」

講師 復興庁顧問 岡本 全勝

3.11 東日本大震災という想定外の災害が起きたことにより、試された日本政府の対応だった。天災と事故という2つの大災害、千年に一度の大津波。町がなされ暮らしが成り立たない。役場が流され、住民支援の機能が喪失。又、初めて経験する原発過酷事故。わからない事故の状況や、よりわからない国民への危機。前例がないなか、岡本さんがしたことは、被被災者生活支援チームを立ち上げたが、「なにをしなければならぬかがわからない」被害の全容がわからない。さまざまな情報・養成が交差する中考えたことは、なにからするか。何ができるか。誰を動かすか、だった。前例はない。これまでにない施策をと奔走しながら、復興庁をつくり、前例通りや、できませんや、検討しますや、縦割りをも打破していった。復興とは何か。「国土の復旧」から「生活の再建」へ。失われたものは何か。失われた町で見えたことは、インフラの復旧だけでは戻らない、にぎわいと暮らしだった。インフラと住宅は行政・各種サービス、産業は、民間企業や行政・コミュニティー、つきあいは、町内会やNPOなど、3つの分野、3つの主

体が、違う手法で取り組むことが重要だという。

まとめとして、自治体の危機管理として、自治体現場で起きる危機として想定内、想定外、前例があること、ないこと。先輩と訓練は役に立つ。又、対応計画の機能と、限界機能の認識。 1・しなければならないこととして、分かること、分からないことを明確化した情報収集。2・誰に何を伝えるかという、情報の配分。3・何をしなければならないか、何ができるかという、課題の整理が重要だとした。そして被害者と住民を向いた仕事であるか。

最後に、1,000 億かけて復旧をして、帰って来たのは20人という市町もあった。また、東日本大震災＝30兆円・新型コロナウイルス対策＝100兆円、南海トラフ地震がきたらどうなるのか。考えさせられた。

2・講義 大災害は市役所の実力テスト

講師 岡山県総社市 片岡聡一 市長

2018年7月6日、総社市は豪雨により被災し、未曾有の大災害となった。午前9時45分、前日からの雨により、災害対策本部を設置。その時、胸騒ぎを感じたという。その数時間後、その予感は的中する。午後9時、市内を流れる高梁川の水位が避難判断水位の10.3mを超え、水位は急激に上昇し12mを越えたとき決壊を覚悟した。2千人の命が奪われると腹をくくったが、自身のツイッ

ターで「逃げてくれ。」と発信し続けた。ツイートをみて、1人でも動いてくれたらその人の命は救える、という必死の呼びかけを行った。情報が錯綜するなか、真の情報を得るために奔走した。市民の生命を守るために下す結論には相応の覚悟が必要だった。瞬時の判断が事態を左右するからである。「有事の際は、法律・条例を破れ」「決断は10秒以内で、責任は自分がとる」「公平・平等の原則では誰一人助けられない」これが、片岡市長が、自らに課した3つの掟だったという。発災から1週間、職員とともに復興に向け全精力を費やした。この窮地を救った支援の輪。千人もの高校生が市役所に結集し、ボランティアの中核として活動を続けた。まとめとして、市長は、情報が交差するなか、情報の一元化のため消防長だけの情報に絞ったこと。リーダーがとるべき姿は、災害本部でリーダーが決めきれないことほど危険なことはない。決めるポイントは、善か悪か、人のために、なるか、ならないか その判断しかないとして講義をしめくくられた。

3・講師 佰食屋オーナー 中村朱美氏

with コロナの時代に向けて・逆境に負けない強い組織のあり方についての講義を拝聴した。一日100食限定ステーキ丼、ランチ営業のみとして飲食業界としては珍しく「残業ゼロ・週休二日制」を実現し、TV「ガイヤの夜明け」でも放映された。